

東京高速鐵道
地 鐵 工 事
ス ナ ツ プ

土砂捲揚塔
掘鑿された土砂はエレベータによつて坑外に搬出され、待機してゐる自動車に積込まれる。



東京高速鐵道工事見學

5月16日東京に於て開催した帝國鐵道協會の總會後、17日より各方面の見學と視察を催されたが、工事個所としての見學は東京高速地下鐵工事だけであつた。

5月20日午前10時半虎の門の地下鐵工事場に集合した鐵道協會々員は 同社の取締役黒河内四郎博士、工務課長竹股一郎氏其他工事關係者に案内されて、虎の門商店街の角より地下に降り、新橋驛方面に徒歩で進んだ。其邊は函型隧道のコンクリート工事が全部仕上つて幕板も外してあり、床盤コンクリートも綺麗に形付いてゐる。新橋驛附近になると土砂掘鑿中の處がある。此邊は一帶に函型一柱式複線隧道であるが、施工は頗る簡單の様である。路面から打込んだIビームが即ち鋼杭として1米半位の間隔に列んでゐる。路面

からオープンカットで掘下るに従つて、鋼杭の間に土留矢板を入れて行く、而して2段3段位に切梁を入れて土壓を支へる。地盤は殆んど砂で貝殻などが交つてゐて、昔の東京灣の海底だつた事が知られる。集水井戸や排水ポンプもあるが、地下水が少いから掘鑿も樂だ、ゴムタイヤ附のホイール・バロウで此土砂がエレベーターの下まで運ばれ、バケツに入れ路面に待つてゐる自動車に移される。坑内の天井は板敷の路面で時々ゴトンゴトンと板が鳴つてゐるのは自動車が路面を通つてゐる音であらう、此の音が坑内の單調さに活氣をつけてゐる様でもある。

○

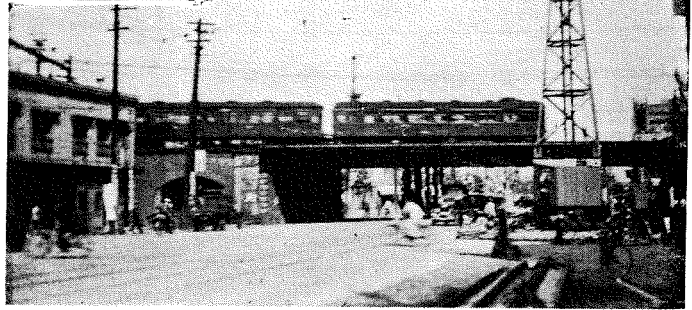
新橋附近から引返して溜池附近、滿鐵ビルの邊まで見學した、其附近は現在コンクリートの工事中である。

鐵筋コンクリートは地下鐵工事の最も重要な使命を果してゐるもので、若し鐵筋コン



現場にて

虎ノ門の現場に於ける
東京高速鐵道の黒河内
博士(左から二人目)と
同社竹股工務課長(そ
の背後)



省線新橋驛附近

省線のガードを通つて東京地下鐵
線と連絡される。此連絡箇所及ガ
ード下の掘鑿は注目に價する。寫
眞はシートパイル打込中。



クリートが無つたとしたら、到底地下鐵など
云ふものは成立つものではない、そう思つ
て此の薄暗い地下のコンクリート工事を視て
みると何となく感謝の念が浮ぶ。

幕板を外した跡のコンクリートの肌も綺麗
であるが、鐵筋が細かく組込んであるから、
搦固め困難な處はセメントを強くしてスラン
プの大なるコンクリートを打つたとの事だ、
地下鐵などのコンクリートのウオーカビリテ
ィーは相當厄介な問題であらうと思ふ。



地下の停留場のホームは兩側の側壁に着い
てゐるが、之は將來擴張の便に備へたとの事
だ、一體に此の會社の工事は經濟的と云ふ事
が最も強調されてゐるので、地下鐵としては
最もコストの低い建設となるらしい。勿論東
京地下鐵道會社が上野淺草間を施工した、日
本の地下鐵の草創時代の工事に比すると、科
學的に非常な進歩がある筈だから、合理的施

工に依る經濟的結果も相當期待出来るのでは
ないかと思はれる。



而して東京高速鐵道の工事は全體に標準的
に單純化されてゐる様であるから、施工にも
監督にも左程困難はないらしい、然し工事は
油斷が大敵である、而して最後の5分間迄氣
はゆるめられない、幸にして此會社の關係者
は工事經驗者が多いから此點安心である。斯
くして我々は日本の地下鐵工事が現在自分の
眼の前に進歩の過程を表現してゐる事に非常な
興味を憶えた。



虎の門附近のコンクリートの仕上つた函型
隧道内に見學者の爲に休憩所を設けられ、其
所で茶菓の饗をうけながら、工務課長竹股一
郎氏の會社の現在將來の路線計畫及び工事狀
況等に關する講演を聞いて本日の意義ある見
學を終つたのは午後1時頃であつた。